

# フィンドレー大学留学報告書

鈴木ひばり

気が付けば年も明け、2024年になりましたね。皆さんいかがお過ごしでしょうか。私は海外で初めての年明けに心を躍らせていました。日本では、新年早々から立て続けに様々なことがありましたが、これを読まれている皆さんや皆さんの家族が無事であったことを願います。

さて、私の1月の留学生活ですが、時間が過ぎるのが本当に早いです。誰か私の時の流れを2倍速に変更した？と、不毛な質問をしたくなるくらい早いです。昨年、アメリカに降り立った八月と比べ、「慣れた」状況で新しい学期を始められることは私にとってとても良いことでした。授業の教室、学食、一通りの1日の流れなどはもうわかっているため、伸び伸びと生活をしています。そして何よりも、国籍問わず気の知れた友達もいるため、前年度と比べて友達作りに急かされることなく、心の余裕をもって過ごすことができています。

今学期の授業は無事に全てのクラスをパスすることが出来、一つ上のクラスを取っています。私は、前学期から大好きな先生がいて、その先生の授業が今学期は増えてとても嬉しいです。その先生は一人一人のことをよく見てくださり、親身になって話を聞いてくれます。時にはその先生と一緒に昼ご飯を食べることもあり、その先生には授業時のことだけでなく、プライベートの様子も筒抜けです。今学期も続けてコーラスのクラスを履修しました。コーラスの授業では、来月にチェコ・スロバキア・オーストリアとヨーロッパ3カ国を回るツアーがあります。とても楽しみです。詳細は2月の報告書をお楽しみに！

私たちの友達に1月生まれの人が多く、1月はたくさんお祝いをしました。アメリカのケーキはとてとても甘いので糖尿病になることを懸念しながらもたくさんのケーキを平らげました。



1月20日に日本人が主体で行う「新年会」がありました。新年会には、国籍問わずたくさんの方が集まってくれました。私達の友達もたくさん来てくれて、日本文化に興味を持ってくれて日本人であることを誇らしく思いました。そこでは、まず書き初めをしてもらいました。筆をもつというか概念や、集中して心を清らかにして書くということをしたことない海外の人に教えるのは少し大変でしたが、みんな各々楽しんでくれて本当に良かったです。海外の人が書く習字は趣があり、素敵な作品がたくさん出来上がりました。そのあとはみんなでお餅を食べました。きなこや、磯部、おしるこなど日本人には馴染みがあるものから、チョコのヌテラなど私達にとっては変わり種のようなものもたくさん用意し、来てくれた方たちに食べて頂きました。書き初めもして、お餅も食べて、新年の日本の雰囲気少しでも味わってくれたと思うととても嬉しいです。

私は、アメリカにいたことが出来る日数が残り100日を切りました。あと残りの日数なんて数えたくもありませんが、航空券のアプリを開く度に、チェックインまでの残りの日数が見えてしまうのです。8月に来た時には永遠に思えたこのアメリカ生活も終わりへと着実に近づいています。最近になって日常品のシャンプーや柔軟剤など、5月までもつかという観点で考えるようになりました。心は嫌でも、頭では現実に向き合っているのだなと実感しています。

残り100日で何を新たに得ることが出来るでしょうか。あと100日も残っているのに考えるなんてはやいと思う方もいるかと思いますが、1月の体感速度はとても早く、このまま日々が終わってしまうことに怖ささえ覚えます。

私の今年の抱負は「英語力をネイティブの人と同等なところまで上げること」です。無謀な挑戦に思いますが、目標は高ければ高いほどいいともいうので、この目標を大きく掲げて少しでもこれに近づけるように勤んでいきたいと思えます。

